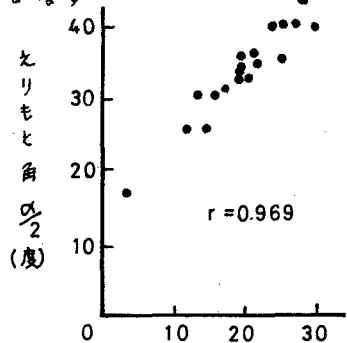


目的 着装における和服のえりの形態は和服着装の美観を表現するためのかなめの一つになっているが、従来は多年の着付け経験によっていろいろなえりの着付け表現が行なわれている。しかしえりの形態は被服構成上の要因と着装要因に影響されて非常に複雑である。われわれは着装におけるえりの形態におよぼす

これら要因の影響を考えながらえりの形態分析を試みた。

方法 各種の和服を製作しこれらを被験者に着用させ、着用状態においてあるいは正面および側面よりの写真撮影によってえり部分の幾何学的寸法を測定し、これら計測量間の関係を求めて、いろいろな着装状態におけるえりの形態分析を行なった。

結果 和服のえりの着用状態を特徴づける幾何学的要因としてはえりもと角 α 、えり足角 β 、えり足線の長さ δ などがあり、構成上の要因としては剣先の角 γ 、くり越え量 ϵ などがある。本図は $\alpha/2$ と着装の際被服の受けるうち合わせ歪角 $\alpha/2 - \delta$ の関係を示したもので着装によりとられるえり形態が男、女、年齢によって異なる例を示している。



うち合わせ歪角, $\alpha/2 - \delta$ (度)
 本図 えりもと角と
 うち合わせ歪角の関係